

体育会学生における就職活動の特異性とキャリアデザイン

生涯スポーツゼミナール 1316002 秋場亮輝

1. 研究動機・研究目的

現代の日本社会は就職活動の過渡期が訪れている。経団連は2018年10月9日に会長・副会長会議で、2021年春入社以降の新卒者を対象とする就職・採用活動のルール「採用選考に関する指針」を廃止することを正式に決定した。通年採用を進める企業などからは歓迎の声が聞かれる一方、採用活動の長期化などを不安視する意見も根強い。正式決定を受け、企業側が採用戦略の見直しを迫られるのは必至で、各社は政府の動きも見定めながら、売り手市場への対応を進めている。これは2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいて今まで企業が説明会や面接会場として使用していた大規模な会場が占領され、従来同じ形で採用活動を行えないという事情を考慮してのことでもある。1953年に始まった就職協定以来、約70年にわたって続いてきた就職・採用活動の目安がいったんなくなる。こうした中で「体育会系」であることで、どのような姿勢で就職活動に臨んでいくべきなのか、また他の一般学生に比べてキャリアをどのように展望することができるのか、そして体育会学生における就職活動の特異性とキャリアデザインについて明らかにするとともに、今後就職活動を控えている体育会系の後輩たちへの指針を示すことを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、体育会に所属している大学4年生(体育会所属学生)70名(※サークル活動は除く)、体育会に所属していない大学4年生(一般学生)70名の計140名を対象として、株式会社スポーツフィールドの社員からのアドバイスと自らの経験をもとにして抽出された質問から、体育会学生と一般学生の比較になる質問を、Google フォームを利用してアンケート調査を実施した。

調査期間は令和元年10月4日～10月21日で行った。一般学生への質問項目は全16項目。一般学生と共通の16項目と体育会学生へのみの質問の7項目を加えて、体育会学生への質問項目は全23項目であった。そして、その結果を集計して比較できる項目においてはt検定を行うなどをして、それぞれの質問項目の結果について検討した。

3. 主な結果と考察

体育会学生と一般学生の各項目の差を見るためにt検定を行った。その結果、インターンシップ参加社数とエントリーシート提出社数は統計学的に有意差が認められた。一般学生の方が体育会学生よりも多くの企業を受けている傾向がある。部活動との両立でなかなか時間がない体育会学生と比べると、興味を持った企業のインターンシップに参加したり、多くの企業にエントリーシートを提出するといった活動量においては一般学生の方が有利であると思った。しかし、内定獲得率(エントリーした会社に対して何社から内定を獲得したかの確率を表したもの)を見てみると、一般学生の6割以上の人の内定獲得率が20%以下であることがわかる。その他の各項目を比較すると、80～100%の項目は同数だが、20～80%の間では各項目で一般学生よりも体育会学生の方が内定獲得率が高いという結果になった。

監督から企業の紹介を受けられたり、体育会学生限定の特別選考ルートがあるなどもこの結果につながっていると考えられる。

4. 結論

体育会学生と一般学生における就職活動の違いを比較してきた。結論として、体育会学生は一般学生に比べて就職活動における活動量は少なかった。そのため就職活動の軸が定まっていない人が多い。しかし、内定獲得社数や内定獲得率は体育会学生の方が高かった。部活動を行いながらという時間が限られている中、就職活動の活動期間の長さを比較しても体育会学生の方が短期間で行っていることから、体育会学生は効率の良い就職活動を行うことができている。一方、一般学生は体育会学生に比べてほとんどの活動においても活動量が多かった。多くの経験の中から就職先を選ぶことができるという点において体育会学生よりも自らの進路選択に時間を割いていることがわかる。

また、志望業界や志望職種に関してはあまり差が見られなかった。アンケート調査の結果を見ると、体育会に体育会に入って有利だと思うことや、体育会活動を通して身についたもの（こと）に対して肯定的な意見がとても多かった。この自己肯定感の高さも就職活動を成功させるには大切である。内定獲得学生の特徴として、大学の成績やクラブ・サークルなどの学生生活に熱心に取り組んでおり、積極的であることが内定への影響力が大きいことが明らかになっている。そのため体育会学生であることは就職活動において少なからず有益であると言える。部活動における成功体験や失敗体験、目標を達成するために努力した経験などが体育会学生の強みであるだろう。

5. 卒業論文の執筆を終えて

まず初めに、本研究においてご協力いただきました多くの方々に心より感謝申し上げます。また、卒業論文の執筆にあたり終始適切な助言を賜り、丁寧に指導してくださった黒須先生に感謝の意を表します。多くの方々の支えがあって執筆を終え、卒業論文を完成させることができました。自らの就職活動の体験から興味を持ったこのテーマで最後まで書き進めることができ良かったです。研究を進めていく中で自分が予想していなかった結果が出たり、知らなかったことを知るきっかけなどが沢山ありました。本研究で得られた結果を後輩に還元して、少しでもその情報をもとに後輩たちがより良い就職活動に繋げてくれたら本望です。大変なこともありましたが、卒業論文の執筆は私にとって良い経験となりました。社会人となる来年からもここで得たことを活かして活動していきたいです。